

田園の風が誘う
挑戦と誇りを育むまち
あつま

Atsuma's Future
あつまのみらい

第 5 次 厚 真 町 総 合 計 画



あつまだけで、いいまち。

北海道
厚真町

HOKKAIDO ATSUMA TOWN



一万年以上続く、 人々の営みと ダイナミックな交易の歴史



厚真町の歴史は、約 1 万 4,500 年前の旧石器時代にまでさかのぼります。厚真川の流域では、長い年月にわたって人々の暮らしが営まれてきました。先住民族アイヌの人々のルーツである縄文人は、北海道内陸部の富良野や十勝地方のほか、小樽方面や青森、新潟との広域的な交流ネットワークを育んでいたことが、厚真町の近年の発掘調査からわかっています。さらに 10 世紀以降の厚真のアイヌ民族は、ロシア極東地域や朝鮮半島、博多や京都、常滑、鎌倉、岩手県平泉・前沢などの東北地方やサハリンとのダイナミックな交易を展開していきます。このように厚真の先人たちは、数千年前から厚真川が育んだ豊かな自然環境や“地の利”に恵まれた地域に暮らし、豊かな生活文化を育んでいました。

林業の町 厚真の誕生



1870 年・明治 3 年に新潟県人青木与八が浜厚真に定住し、
明治 20 年・今から約 140 年前ころから富山県や石川県、岩手県など
本州からの和人の移住が本格化します。
厚真川流域に広がっていた原野や森林は、
人々の手によって少しずつ水田や畑へと開かれてきました。
用水路の整備や土づくりの工夫などに、地域の人々が力を合わせて取り組み、
その積み重ねによって、農業の町としての厚真町の基盤が築かれてきました。
夕張山地南部に位置する厚真の原生林を資源として、製材所や炭焼き窯が町内各所につくられ、
明治 30 年・1897 年に苫小牧村から厚真村が独立し、行政単位としての厚真が誕生します。
その後も急速な発展を遂げ、これらの生産・流通・地域経済の拠点として、
現在の厚真町市街地が形成されてきました。





昭和の躍進的發展 とまとう 「苫東開発」

現在の厚真町の発展は、厚真町・苫小牧市・安平町にまたがる「苫小牧東部工業地帯」の開発を大きなきっかけとして進んできました。1980年（昭和55年）に北海道電力苫東厚真火力発電所1号機の運転が始まり、現在では北海道最大規模の火力発電所となっています。

さらに、国内最大級の石油備蓄基地の整備や、日本海航路の定期フェリーの就航などが進み、厚真町は北海道のエネルギー供給や全国につながる物流の拠点として、重要な役割を担っています。

また、北海道の空の玄関口である新千歳空港から1時間以内という立地にも恵まれており、産業・物流・交流の面で大きな優位性を持っています。

こうした産業基盤と、田園や海、森に囲まれた豊かな自然環境、そしてそこで営まれる人々の暮らしが互いに支え合いながら、厚真町は発展を重ねてきました。

エネルギーや物流を担う力強い産業と、農林水産業をはじめとする地域の生業、そして日々の生活環境が調和することによって、さらなる発展につながる高いポテンシャルを備えた町と言えます。

半世紀にわたる五つの総合計画。

厚真町は震災、人口減少など、時代の課題に向き合いながら歩んできました。

厚真町まちづくりの変遷

第1期

厚真の新しいまちづくり計画
昭和 48 (1973) 年～

すぐれた文化生活の確保と
豊かな生産を目指して

苫小牧東部大規模工業基地開発計画などの発表を契機に、町初のまちづくり計画が策定されました。

隣人愛に富んだ静かな暮らしの伝統を守り、高水準の文化生活と環境保全を実現し、生活と生産の場を適正に配置した機能的な地域社会の形成を図りました。

公害のない生産性の高い産業振興により、豊かな生活と生産の両立を目指しました。

第2期

厚真町新総合計画
平成 8 ～平成 17 (1996 ～ 2005) 年

交流さそう、緑とゆとりにあふれた「大いなる田園」の町

「交流さそう、緑とゆとりにあふれた大いなる田園の町」を基本テーマに、第2次となる厚真町新総合計画が策定されました。

水害のないまちづくり、基幹産業である農業をはじめとする諸産業の振興、生活環境の整備、教育文化の振興、福祉の充実を図るとともに、苫小牧東部開発新計画との整合性を保ちながら、弾力的かつ積極的なまちづくりを進めました。

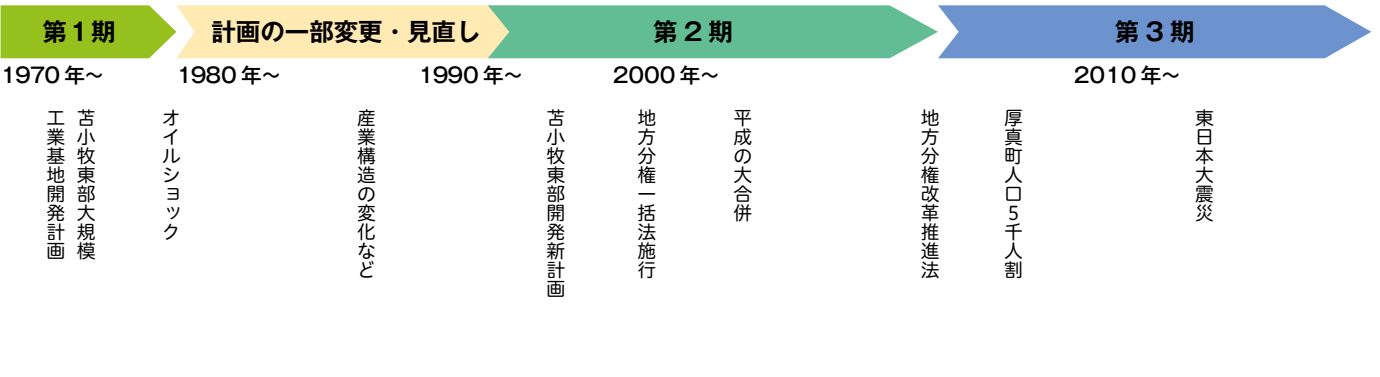
第3期

第3次厚真町総合計画
平成 18 ～平成 27 (2006 ～ 2015) 年

いのち満ちる農(みのり)の里あつま、大いなる田園の町

全町民の英知と力を結集し、協働の仕組みづくりを進め、活力あふれ自立する“ふるさとあつま”を創造するというコンセプトのもと、自律と協働のまちづくりを推進する計画が策定されました。

従来より積極的・戦略的にまちづくりを進め、町の活性化を図るとともに、長期的視点に立つて優先度が高く町民生活の安定向上に有効な施策・事業を展開しました。



第4期

第4次厚真町総合計画
平成 28 ～令和 7 (2016 ～ 2025) 年

あつまる、つながる、まとまる
大いなる田園の町、あつま

少子高齢化が進行し、産業全体の後継者不足・人材不足など地域経済の発展や活力ある地域社会の形成などに課題が生じているなか、厚真町がもつ限らない可能性を信じ、人を育て・人を残し、先達から受け継いだ「豊かな森と海、田園の輝き」を次世代に引き継ぐため、積極果敢に新しいまちづくりに挑戦してきました。

第4.5期

第4次厚真町総合計画改訂版
平成 28 ～令和 7 (2016 ～ 2025) 年

あつまる、つながる、まとまる
大いなる田園の町、あつま

第4次の総合計画の期間中、平成30年北海道胆振東部地震により未曾有の被害を受けました。このため、復興計画や人口減少問題に取り組むための総合戦略を盛り込んだ、第4次厚真町総合計画の改訂作業をおこないました。改訂版では、震災からの復旧・復興、地方創生、防災・減災の取り組みを一体的に推進し、しなやかで持続的発展が可能なまちづくりを目指してきました。

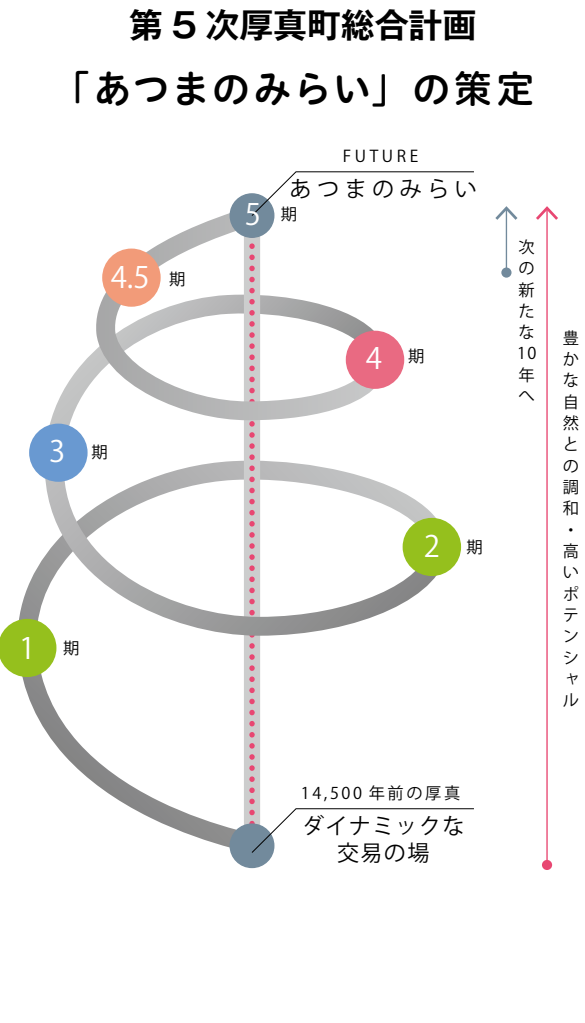
第4期 (2015年～)

第4.5期 (2020年～)

5年連続の社会増達成

平成三十年北海道胆振東部地震

新型コロナウイルス大流行



あつまのみらい 総合計画の構造

基本構想（10 年間）

計画的かつ戦略的にまちづくりを行うための基本的指針で、10 年間の長期的な構想を示します。
期間：令和 8 年度～令和 17 年度（2026 ～ 2035 年度）

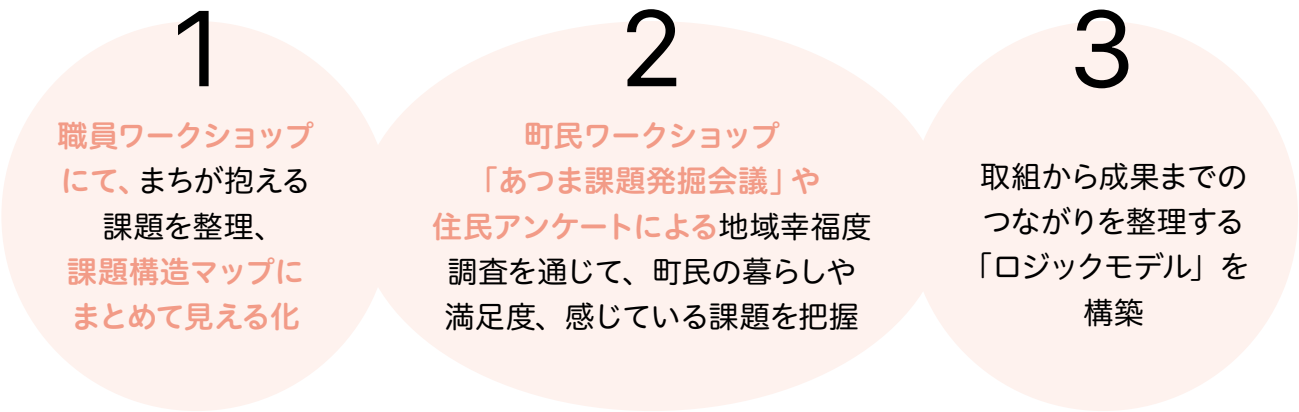
基本計画（前期・後期各 5 年間）

基本構想に基づき、達成すべき目標や、その道筋を示した中期的な計画です。前期・後期のそれぞれ 5 年間で構成します。
前期：令和 8 年度～令和 12 年度（2026 ～ 2030 年度）
後期：令和 13 年度～令和 17 年度（2031 ～ 2035 年度）

実施計画（3 年間）

基本計画で定めた数値目標や成果指標等を達成するための具体的な事業や実施期間を定めた、3 年間の短期計画です。
毎年度ローリング方式により見直しを行います。

「課題構造の見える化」のため現状を正しく把握し、何から取り組むべきかを明確にするため、
以下3つの段階を踏んで計画づくりを進め、実行につながる計画としてまとめました。



国連が定める「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献するため、各施策と SDGs の 17 のゴールとの関連を明示しています。厚真町は、SDGs の理念である「誰一人取り残さない」持続可能なまちづくりを推進します。



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

基本構想

一緒に考え、語ることで みえてきた「あつまのみらい」



基本構想では、厚真町がこれからどの方向へ進んでいくのかを示す「地図」と、
施策をどのような順序で進めていくのかを示す「道筋」を描いています。
18 の施策について作成したロジックモデル（取組を進めるための設計図）を土台
とし、課題構造マップから見えてきた、特に効果が高いポイント（レバレッジポイ
ント）を起点に、計画を進めていきます。
具体的な事業の内容については、次に策定する基本計画で定めることとし、町が
めざす将来像と大きな方針を共有します。

ロジックモデルとは、施策ごとに、
取組（やること）→直接的結果（やった結果う
まれるもの・こと）→社会的インパクト（望まし
い変化：初期成果・中期成果・長期成果）
の順番で並べた設計図です。例えば
・取組：研修の開催、施設の整備、情報の周知、
相談窓口の設置
・直接的結果：開催回数、参加者数、配布数、
連携件数など、すぐ数えられるもの
・社会的インパクト：取組で直接的に左右する
ことができない、地域や人の変化

10年後の将来像を可視化する

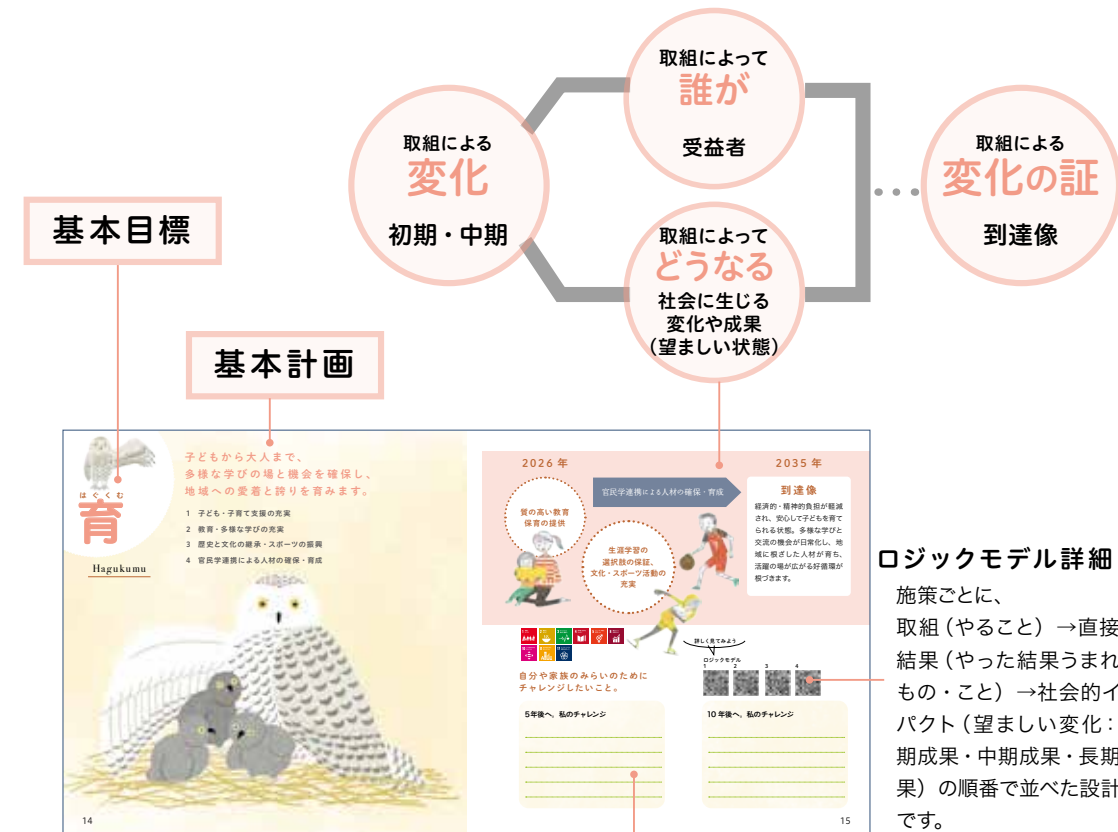
田園の風が誘う 挑戦と誇りを育むまち あつま

厚真町は、田園の広がりや海・山・川に恵まれた風土のもと、人と自然が寄り添う暮らしを育んできました。私たちは、この豊かな環境を次の世代へと引き継ぎながら、子どもから大人まで、一人ひとりが自分らしい歩みの中で、時には一歩踏み出す「挑戦」を重ねていけるまちを目指します。

ここに集い、ふだんの暮らしを営むこと自体が尊重され、小さな挑戦も、挑戦しない穏やかな日常も、どちらもまちの大切な財産として認め合うことで、「あつまだけで、いいまち。」と実感できる誇りを育んでいきます。こうした田園の風に誘われるような心地よさと、一人ひとりの挑戦と誇りがめぐるまちづくりを通じて、「田園の風が誘う 挑戦と誇りを育むまち あつま」の実現を目指します。

基本計画の見方

14 ページから始まる厚真町の 18 の基本計画では
左ページに施策の全体像
右ページに基本計画の全体像と成果までの道筋を可視化しています。
施策の成果までの道筋を理解したい場合は、
右ページの QR コードからロジックモデル図の詳細をご覧ください。



ロジックモデル詳細

施策ごとに、
取組（やること）→直接的
結果（やった結果うまれる
もの・こと）→社会的イン
パクト（望ましい変化：初
期成果・中期成果・長期成
果）の順番で並べた設計図
です。

challenge!

住み続けたい厚真町のために
あつまに住む全員がチャレンジしたいことを
町は応援します。
自分や家族、まちの未来のために
やりたいことを書いて発表しましょう。

はぐくむ
育

P14 Hagukumu

すこやか
健

P16 Sukoyaka

なりわい
業

P18 Hagukumu

くらす
暮

P20 Hagukumu

ひらく
拓

P22 Hagukumu



はぐくむ

育

Hagukumu

子どもから大人まで、
多様な学びの場と機会を確保し、
地域への愛着と誇りを育みます。

- 1 子ども・子育て支援の充実
- 2 教育・多様な学びの充実
- 3 歴史と文化の継承・スポーツの振興
- 4 官民学連携による人材の確保・育成



2026 年

質の高い教育
保育の提供



官民学連携による人材の確保・育成

生涯学習の
選択枝の保証、
文化・スポーツ活動の
充実



2035 年

到達像

経済的・精神的負担が軽減
され、安心して子どもを育て
られる状態。多様な学びと
交流の機会が日常化し、地
域に根ざした人材が育ち、
活躍の場が広がる好循環が
根づきます。

詳しく見てみよう

ロジックモデル



自分や家族のmiraiのために
チャレンジしたいこと。

5年後へ。私のチャレンジ

10 年後へ。私のチャレンジ

誰もが安心して暮らせる
医療・福祉の基盤を整えます。

- 5 高齢者福祉・介護の充実
- 6 社会福祉・障がい福祉の充実
- 7 保健・医療の充実



2026 年

地域包括
ケアシステムの充実



必要な医療へのアクセス確保を進める

インクルーシブな
社会の実現



2035 年

到達像

地域の支えのもと、孤立することなく安心して暮らせる環境が整い、十分な支援と社会参加の機会が確保され、必要な医療を受けられる状態。心身ともに健やかな暮らしが続きます。



詳しく見てみよう

ロジックモデル
5 6 7



自分や家族のmiraiのために
チャレンジしたいこと。

5年後へ。私のチャレンジ

10 年後へ。私のチャレンジ



地域の産業基盤を強化し、
多様な働き方と新たな事業を生み出します。

- 8 農畜産業の振興
- 9 林業の振興
- 10 水産業の振興
- 11 商工業・観光の振興
- 12 地域経済の活性化

Nariwai



2026 年

事業者が経営を
継続できる
環境づくり

域内経済循環の促進

持続可能な資源管理、
地域資源を活用した
販路開拓

2035 年

到達像

担い手が安定的に確保・育成され、安定した経営環境のもとで、雇用を生み出し地域経済の発展に寄与できる状態。魅力ある雇用の選択肢が増え、地域に継続的な活力が循環します。



自分や家族の未来のために
チャレンジしたいこと。

5年後へ。私のチャレンジ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

詳しく見てみよう

ロジックモデル



10 年後へ。私のチャレンジ

.....

.....

.....

.....

.....

.....



快適で便利な生活環境を整え、
持続可能な暮らしを実現します。

- 13 都市機能の最適化
- 14 人と自然にやさしい循環型社会づくり
- 15 住まい方の充実・定住促進
- 16 防災・危機管理能力の強化
- 17 町民共創による安心・安全なまちづくり

Kurashi



2026 年

インフラや
公共施設の適切な
維持管理、
環境負荷の軽減



町民共創によるまちづくり

魅力的な居住環境の
整備、防災・
危機管理体制の強化



自分や家族の未来のために
チャレンジしたいこと。

5年後へ。私のチャレンジ

2035 年

到達像

適度な都市機能を楽しみながら、環境負荷の軽減を目指した持続可能なライフスタイルを実践できる状態。魅力的な居住環境のもとで、安心して長く住みたいと感じられ、リスクへの備えが充実し、様々な主体とともに地域の課題解決に取り組める状態。静けさと賑わいが両立する日常が実現します。

詳しく見てみよう

ロジックモデル

13

14

15

16

17



10 年後へ。私のチャレンジ



Hiraku

持続可能な財政運営を確立し、
職員が誇りを持って働ける組織へ転換します。

18 健全な行財政運営への転換



2026 年

効率的で
効果的な
施策・事業への
束ね

職員の Well-Being 向上

先端技術の
有効活用、
組織ガバナンスの
強化



自分や家族の未来のために
チャレンジしたいこと。

5年後へ。私のチャレンジ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

2035 年

到達像

持続可能な財政運営を確立し、効率的で効果的な施策・事業に束ねることができる状態。やりがいを持って、いきいきと働くことができ、心理的安全性が担保され、Well-Being が向上している状態。住民と行政との風通しが良い関係性のもと、効率的で透明性の高い行政が実現し、誇りを持てる「住み続けたい・帰りたくなる」まちが定着します。

詳しく見てみよう

ロジックモデル
18



10 年後へ。私のチャレンジ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

厚真町は、今後 10 年間に於いて、5 つの重点的な挑戦に取り組めます。
人が育ち巡り、顔が見え、産業が循環し、安心が守られ、役場が変わる。
これらの挑戦を通じて、「あつまるだけで、いいまち。」と
実感できるまちづくりを進めます。



「あつまるだけで、 いいまち。」～あつまチャレンジ～

1

人が育ち、巡り、
帰ってくるまちへ

人材好循環
転換チャレンジ

人材不足は「人がいない」のではなく、「人が
集まり続ける構造がない」ことが考えられます。
働く環境を整え、やりがいが高めることで、人
材が自然と集まり、定着し、帰ってくる好循環
を作ります。保育士、教員、介護職員、医療従
事者、農業・林業・漁業・商工業など全分野で
の人材確保・育成を通じて、「人が育ち、巡り、帰っ
てくるまち」を実現します。

2

顔が見え、あいさつ以上の
かわりがうまれるまちへ

共創社会関係資本
ブーストチャレンジ

地域のつながりが薄れると、子育ての孤立、
高齢者の孤立、防災力の低下など課題が連鎖
します。世代を超えた人々が自然に集い、交流
し、信頼が生まれ、共助が育つ「関係性を設計
するインフラ」を整備します。子育て支援、文化
スポーツ、高齢者福祉、防災、町民共創を一体
的に進めることで、「顔が見え、あいさつ以上
のかわりがうまれるまち」を目指します。

3

地域で生み出し、地域で巡る・
膨らむまちへ

産業・地域経済乗数
最大化チャレンジ

農業、林業、漁業、商工業、観光が力を合
わせることで、経済が地域内で循環し、成長す
る仕組みをつくりまします。各産業の基盤維持・強
化と担い手確保から事業の魅力向上、新規参入
へと続く好循環を全産業で実現し、企業や大学
との連携による産業間のイノベーションにより、
地域で生まれた付加価値が地域内で巡り、「地
域で生み出し、地域で巡る・膨らむまち」を実
現します。

4

地域で備え、地域で守る、
安心のまちへ

暮らし安心レジリエンス
統合チャレンジ

医療、福祉、交通を一体的に見直し、防災と
地域のつながりを深めるとともに、住宅、エネ
ルギー、環境についてもまとまりのある取組を
進めます。こうした取組を通じて、道路や施設
などの社会インフラの持続性向上と、地域で支
え合う仕組みづくりの両面から、暮らしを支え
る土台を整えます。また、防災を日常の中に「文
化」として根づかせ、震災の経験を次の世代へ
しっかりと引き継ぎながら、町民一人ひとりが
暮らしやすさを実感できる環境をつくりまします。
そして、「地域で備え、地域で守る、安心のまち」
を実現し、厚真町に住み続けたいと思えるまち
づくりにつなげまします。

5

挑み続け、変わり続け、
明日を拓くまち（役場）へ

行政経営 OS
刷新チャレンジ

役場を、決められたことをこなす組織から、
自ら考え、学び、進化し続ける組織へと変えて
いきます。すべての施策に具体的な目標を設定
し、データに基づいて成果を検証しながら、素
早く改善を重ねまします。また、部署の枠を超えた
定期的な見直しの場を設け、施策同士が連携し
て効果を高められる体制をつくりまします。町から
の情報発信と町民の声を受け止める仕組みを一
体的に充実させ、データも活用しながら、町民
との信頼関係を深めまします。あわせて、職員一人
ひとりが働きがいを感じられる職場環境を整え
まします。こうした行政の基盤づくりによって他の 4
つの挑戦を力強く支え、「挑み続け、変わり続け、
明日を拓くまち（役場）」を実現まします。



代表的な取組

- ・起業家人材の確保・育成
- ・農林水産業担う後継者、担い手の確保・育成
- ・保育人材の確保・育成
- ・文化財ガイドの育成
- ・福祉・保健・医療の人的基盤の形成支援
- ・技術職志望者の支援
- ・ふるさと教育の推進
- ・行政職員の成長を促す人材育成の基盤整備

- ・こども園・児童会館の充実
- ・子育て支援関連施設の充実
- ・プレーパーク等子どもの居場所の充実
- ・文化交流施設・広場の整備
- ・重層的生活支援体制の整備
- ・住民主導による防災力の強化
- ・住民活動の推進
- ・地域運営組織の活動支援
- ・文化・スポーツ・交流活動の充実
- ・ふるさと教育の推進（再掲）

- ・外部人材との連携促進
- ・大学や研究機関との連携促進
- ・起業・新事業の創出支援
- ・町内商工業者の経営支援
- ・IC 型ポイントカードの普及啓発
- ・官民連携の推進
- ・産業基盤の維持・強化

- ・カーボンニュートラルを目指した取組の推進
- ・グリーン・トランスフォーメーションの加速
- ・公共施設の再編・総合管理の推進
- ・安心・安全な省エネ住宅の整備促進
- ・多機能型診療所の推進
- ・WEB 見守り環境の整備
- ・地域防災組織の活動促進
- ・避難施設・経路の整備
- ・デマンド交通・スクールバス等の運行
- ・社会インフラの持続性向上

- ・行政 DX の加速
- ・AI の活用促進
- ・情報発信力の強化
- ・施策取組状況の開示
- ・行政職員の成長を促す人材育成の基盤整備

厚真町は、新千歳空港から1時間以内という優れた立地条件に恵まれ、豊かな自然環境と力強い産業基盤を有しています。平成30年北海道胆振東部地震からの復興を通じて、地域の絆の大切さを改めて認識いたしました。人口減少と高齢化は、わが国の地方自治体全体が直面する共通課題ですが、厚真町は広域的な交流・連携基盤と地域のポテンシャルを活かすことで、この課題に対応してまいります。

本計画では、5つの「あつまチャレンジ」を掲げ、人が育ち巡り、顔が見え、産業が循環し、安心が守られ、役場が変わることを目指します。これらの挑戦を通じて、「あつまだけで、いいまち。」と実感できるまちづくりを推進していくことを描いています。

本計画は、2年間にわたり、職員ワークショップ、町民の皆様によるワークショップ、地域幸福度調査、パブリックコメントなど、多くの皆様のご協力をいただきながら、丁寧に積み重ねてきた成果でございます。中高生から高齢者まで、様々な世代の声を聴取し、課題を一つひとつ拾い上げ、この計画に反映させてまいりました。

18の施策は、町民の皆様の声と職員の知見に基づき、農業、林業、漁業、商工業といった産業の振興から、子育て支援、高齢者福祉、防災まで、幅広い分野にわたって構想されたものです。一人ひとりが自分らしく暮らし、やりがいを感じられるまちづくりを目指します。

町民の皆様、企業の皆様、そして行政が一体となって、本計画を推進することで、厚真町の未来を切り拓いていきたいと考えております。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

厚真町長 宮坂尚市朗



地域で生み出し、地域で巡る・

膨らむまちへ

地域で備え、地域で守る、

安心のまちへ

顔が見え、あいさつ以上の
かかわりがうまれるまちへ

Atsuma's Future

あなたが10年後に

実現したいのは

どんな厚真町の姿ですか？

人が育ち、巡り、
帰ってくるまちへ

挑み続け、変わり続け、
明日を拓くまち（役場）へ

